

**第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会
滋賀県開催準備委員会
第10回広報・県民運動専門委員会 議事録（概要）**

1 日時

平成30年(2018年)7月17日(火) 10:00~12:00

2 場所

滋賀県大津合同庁舎7-A会議室

3 出欠状況

委員18名中14名出席

出席：井口 貢委員長、天川 隆男副委員長、東 登志也委員、糸井 孝実委員、
北脇 康久委員、坂田 しのぶ委員、嶋津 栄之委員、清水 純一郎委員、
殿村 美樹委員、野村 智洋委員、廣瀬 香織委員、藤原 久美子委員、
松田 規久子委員、吉成 永部委員

欠席：北川 肇委員、藤本 正勝委員、堀土 昌哉委員、村松 泰委員

4 配付資料

別添のとおり

5 会議概要

説明・報告事項（1）

※事務局から「第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会滋賀県開催準備委員会
第6回常任委員会における決定事項」について説明。

【質疑応答なし】

説明・報告事項（2）

※事務局から「公益財団法人日本スポーツ協会 国民体育大会委員会（平成30年6月14日）
における決定事項」について説明。

【質疑】

<委員>

国民スポーツ大会の名称が平成35年(2023年)から適用ということであるが、それ以前の
ものについては、どのように扱っていくのか？

<事務局>

平成34年(2022年)開催の栃木県までは、「国民体育大会」の名称を使用することになる。
本県においては、平成36年(2024年)に開催することになるので、名称の変更の時期は、現
在調整中であるが、「国民スポーツ大会」の名称を使用することになる。

<委員>

スポーツ基本法の改正に伴うということで、国民体育大会から国民スポーツ大会に名称が変更される趣旨やこめられた思いについて、説明いただきたい。

<事務局>

日本体育協会が、日本スポーツ協会に名称が変更されたように、従来の体育から、健康づくりや趣味など、多くの人が気軽に体を動かすという意味を込め、体育よりも幅広い解釈として、スポーツという文言が採用されたと伺っている。

説明・報告事項（3）

※事務局から「第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会マスコット展開形の制作」について説明。

【質疑応答なし】

審議事項

※事務局から「第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会愛称・スローガンの制定」について説明。

【質疑】

<委員>

一万点以上の中から最優秀賞を選考し、賞金を渡すことになると思うが、同一作品が出てくる可能性があると考えられる。同一作品が多数あった場合については、どのように考えているか？

<事務局>

先催県では、同一作品が存在した場合については、賞金を人数で分配しておられるケースや、1名を抽選して賞金を渡すケース（抽選からもれた方には、グッズを配布する等）もある。本県においても、同様な状況になることも想定できるので、今後検討してまいりたい。

<委員>

参考資料を拝見していると、栃木県においては国体の愛称のみであるが、全国障害者スポーツ大会と統一の愛称という理解で良いか？

<事務局>

先催県では、愛称・スローガンの募集の段階において、国体のみの募集をされている。理由としては、準備組織が「国体準備委員会」であることがあげられる。開催が近づくと、準備組織も「国体・全国障害者スポーツ大会準備委員会」と改組され、それと同じタイミングで、全国障害者スポーツ大会の愛称が決定され、加わるという流れになっている。

<委員>

略称の審議については、「国スポ」「障スポ」で決定しているのか？一般的には、過去に開催されていた、身体障害者スポーツ大会時には「身スポ」と呼んでいた。その流れを汲んでいくと、「障スポ」はごく自然なことと考えている。「障スポ」という略称は良いのではないかと思う。

あと、愛称・スローガンを募集していくこととなると思うが、同一語句ではあるが、句読点

や、漢字表記・ひらがな表記で違っていた場合はどう扱うのか？

<事務局>

一点目の、「国スポ」については決定している。「障スポ」については、未定であり、今後検討してまいりたい。

二点目については、基本的に同一語句であっても、句読点や、漢字表記・ひらがな表記で違いがあった場合については、先催県をみても、それぞれを別作品として扱っており、本県においても、今後検討してまいりたい。

<委員>

どのように両大会を周知していくかの視点で考えると、全国障害者スポーツ大会の略称について、「障スポ」という表記が一番分かりやすいと感じるが、昨今 2020 年の東京オリパラのようにオリパラの文言が国民に周知されていると思われるので、パラの文言を取り入れてはどうか。

さらに障という文字が前面に出てくるのは、少し抵抗を感じるということも、実際に障害のある方から伺ったことがある。パラという表記については、障害を限定してしまうということなので、もう少し検討を重ね、県民に浸透しやすい文言を考えてはどうか。2024 年にもオリンピック・パラリンピックが開催され、スポーツへの関心が高まっていると思われる。

今回の意見を踏まえ、次回の専門委員会において、愛称・スローガンの募集要領・審査要項等を審議する旨、各委員了承。

その他

※事務局から「広報・県民運動専門委員会における今後の予定（案）」について説明。

【質疑】

<委員>

今後、専門委員会において、県民運動基本計画（案）の検討・審議を進めていくこととなるが、より深い議論を展開していくために、県民運動により精通しておられる方や団体の参画をお願いしてはどうか？

委員の提案をもとに、今後委員長・副委員長、事務局で協議の上、次回の専門委員会より、委員を増員していく旨、各委員了承。

以上